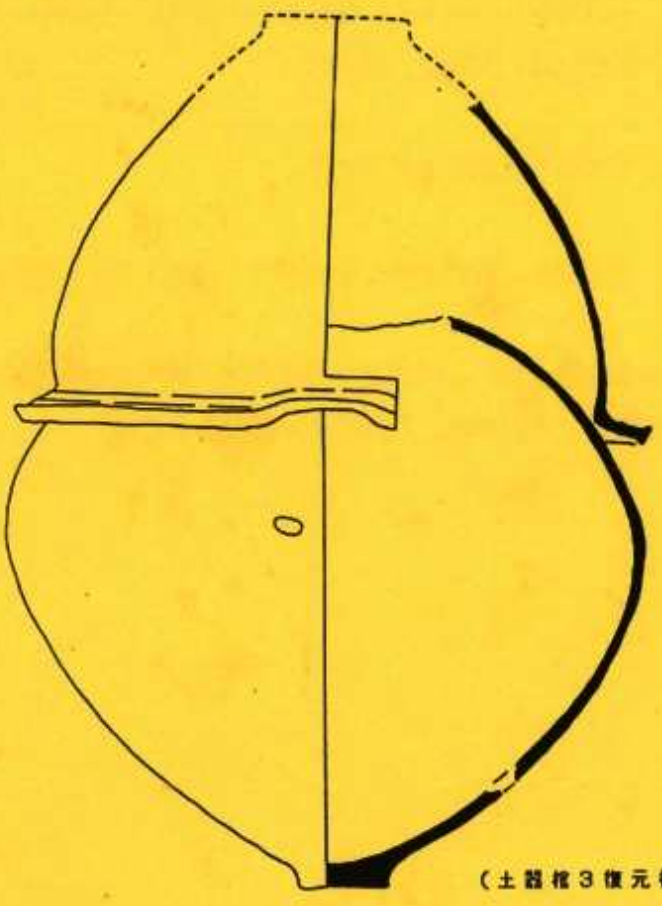
太子町文化財資料　第51集

常全日蓮寺遺跡の調査

－防火水槽設置工事に伴う遺跡確認調査－



（土器棺３復元模式図）

１９９５年４月

太子町教育委員会

例言

1．本書は、兵庫県揖保郡太子町常全字日蓮寺178 番地における防火水槽設置工事に伴う遺跡確認調査の概要報告である。

2．調査は、平成６年３月３日に実施したものである。

3．調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次、海野浩幸が担当した

4．調査、整理作業にあたっては、下記の諸氏の協力を得た.（五十音順、敬称略）

調査作業員

小野八郎、小野博由、小松正夫、塚原進、中島捨信、西脇勇、藤井昭子、藤井実、三浦史郎、宮田昭男、大和正、山本栄

調査補助員

小山真紀、中村幸子（龍谷大学１回生）

整理作業員

伊藤慶子、井上幸余、岩村千穂、中村豊子、森崎千恵子、森田朝子

調査協力者

村瀬孝（常全自治会長）、成真土木株式会社、株式会社前田組

5．本書の執筆・編集は、三村修次、海野浩幸が担当した。

本文目次

例言

調査に至る経過 …… 2
調査の概要 …… 2
その他の弥生遺物 …… 15
まとめ …… 16

挿図目次

第１図　周辺遺跡分布図 …… 1
第２図　調査位置図 …… 2
第３図　遺構配置図 …… 3
第４図　土層断面図 …… 3
第５図　遺構実測図１（土器棺１）…… 4
第６図　遺構実測図２（土器棺２）…… 4
第７図　遺物実測図１（土器棺１）…… 5
第８図　遺物実測図２（土器棺２）…… 5
第９図　遺構実測図３（土器棺３）…… 6
第10図　遺物実測図３（土器棺３）…… 7
第11図　遺構実測図４（土器棺４）…… 8
第12図　遺物実測図４（土器棺４）…… 9
第13図　遺物実測図５（土坑出土遺物１）…… 10
第14図　遺物実測図６（土坑出土遺物２）…… 11
第15図　遺物実測図７（土坑出土遺物３）…… 12
第16図　遺物実測図８（土坑出土遺物４）…… 13
第17図　遺物実測図９（土坑出土遺物５）…… 14
第18図　遺物実測図10
（土器棺１周辺出土遺物）…… 15
第19図　遺物実測図11
（土器棺４周辺出土遺物）…… 15

表目次

表１　弥生遺物観察表 …… 17

図版目次

図版１　（上）調査地全景
（下）土器棺全景
図版２　（上）土器棺１検出状況
（下）土器棺２検出状況
図版３　（上）土器棺３検出状況
（下）土器棺４検出状況
図版４　土器棺４底部（７）籾痕跡

第１図　周辺遺跡分布図（航空写真1989年）

１．調査地
２．常全遺跡
３．老原遺跡
４．阿曽南遺跡
５．阿曽北遺跡
６．常全古墳（消滅）

常全日蓮寺遺跡の調査

1．所在地

兵庫県揖保郡太子町常全字日蓮寺178 番地

2．調査主体者

太子町教育委員会

3．調査担当者

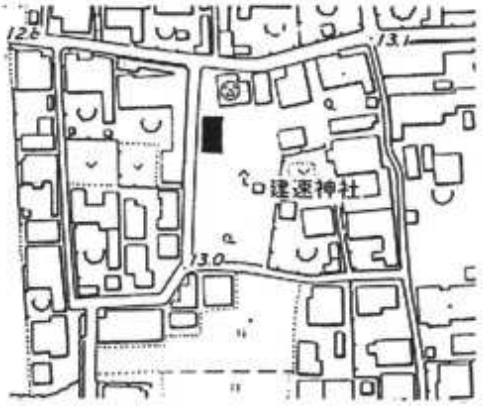
三村修次、海野浩幸

4．調査期間

平成６年３月３日

5．調査面積

40㎡



第２図　調査位置図（ 1/2,500 ）

6．記録作成

遺構平面実測図（1/10・1/20・1/100）、土層断面図（1/20）、遺物実測図（1/1）、写真（ﾓﾉｸﾛ／ｶﾗｰ35㎜ ・ ｶﾗｰﾘﾊﾞｰｻﾙ35㎜ ・ｶﾗｰ6×7cm 版）

7．調査に至る経過

今回太子町生活環境課による防火水槽設置工事が、太子町常全字日蓮寺178 番地に所在する建速神社境内において実施されることになった。工事予定地は常全集落の南よりに位置し周辺は全て宅地となっており、遺跡の存在を裏付ける遺物等の散布は認められない。しかし北方約200mの地点には、山陽新幹線建設に先立ち発掘調査が実施された常全遺跡が所在することから、当該地域にも遺跡の範囲が及んでいることが考えられるため、立会い調査を実施することにした。

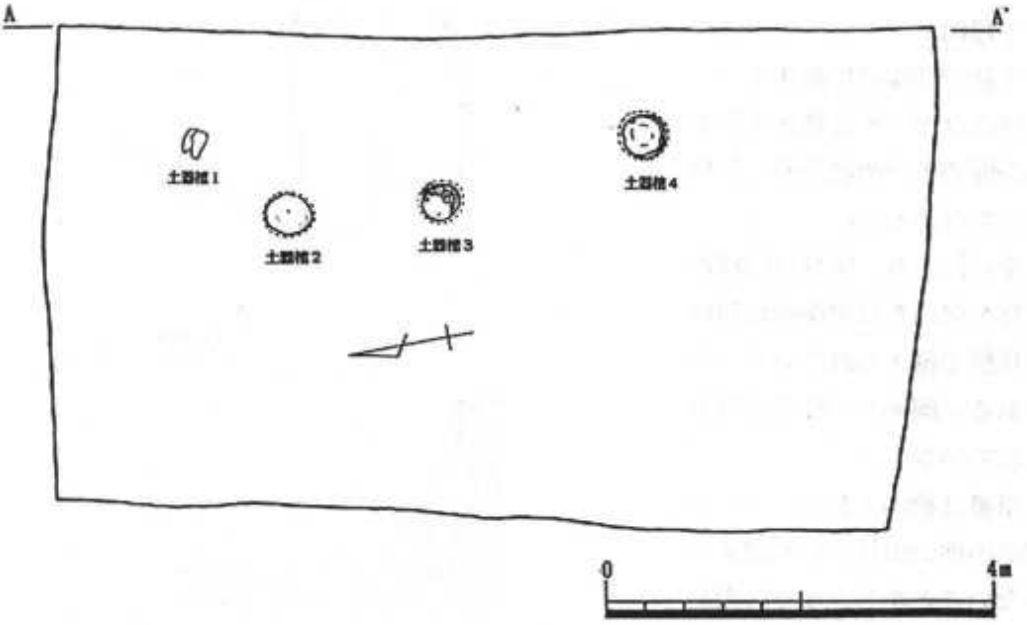
8．調査の概要

調査は、防火水槽を設置する５×８ｍの範囲を実施した。

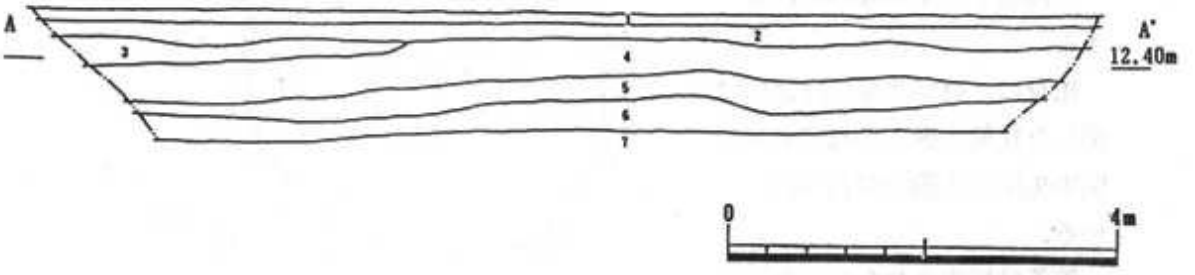
調査地は、表土（30cm）、盛土（30～40cm）で礫混り淡褐色土となっており、この土層上面で瓦、染付け陶磁器片を多量に包含した土坑１基が検出された。

土層の状況からこれより下層には遺構の存在は無いものと判断し、重機により土層の断ち割りを実施したところ、地表下約1.3m地点の淡褐色砂礫土上面から弥生式土器片が出土したため、急遽重機による掘削を中止し精査したところ、弥生式土器の埋納されているのが１個所確認された。その状況から土器棺と判断し、さらに周辺部を精査したところ新たに３基を検出し、合計４基の土器棺を検出するに至った。

土器棺はゆるい弧を描いて並んでいるように認められたが、砂礫土層中に埋納されていたため、精査したがいずれも掘り方を検出することは出来なかった。



第３図　遺構配置図



1　表土
2　盛土
3　礫混り褐色土（江戸末土坑埋土）
4　礫混り淡褐色土
5　小円礫混り暗灰褐色土
6　淡褐色細砂礫土
7　淡褐色砂礫土

第４図　土層断面図

土器棺１

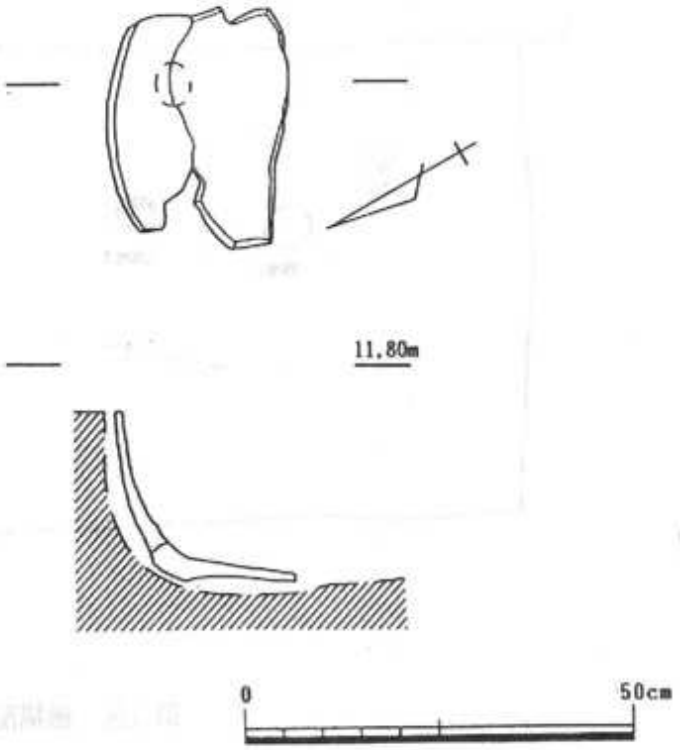
４基中北端に位置する。

残念ながら不注意による重機の掘削のため底部分しか検出出来なかった。

復元により、棺身は口縁部を打ち欠いた壺が南西に傾いた状態で据えられていたようである。胴部への穿孔は行なわれていない。

棺蓋は検出されなかったが、胴部の他の破片中にも認められないことから、すでに撹乱により失われていたものと考えられる。

人骨、副葬品は検出されなかった。



第５図　遺構実測図１（土器棺１）

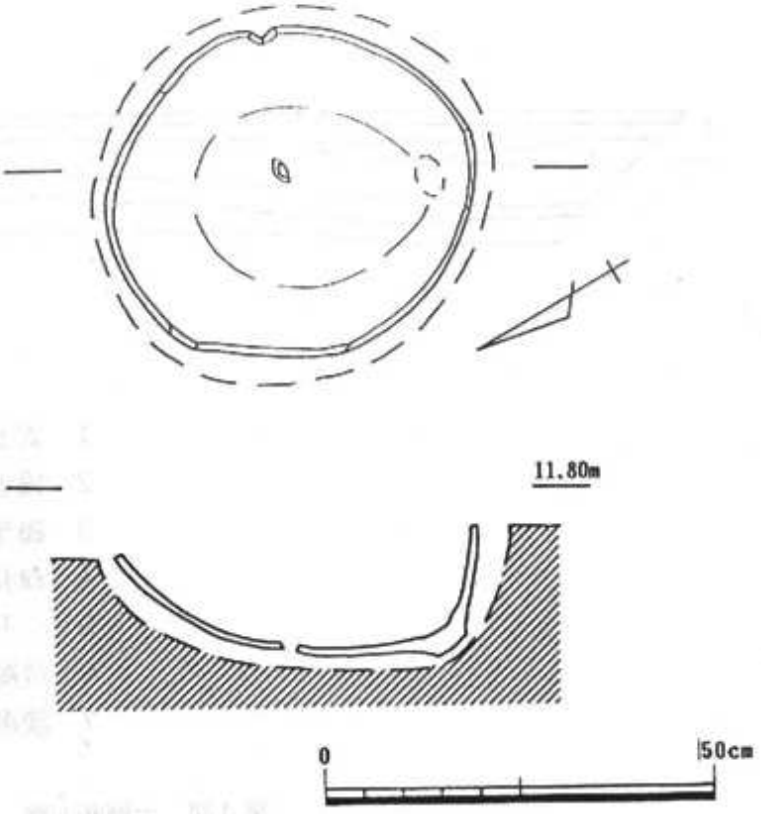
土器棺２

土器棺１の南西80cmに位置する。

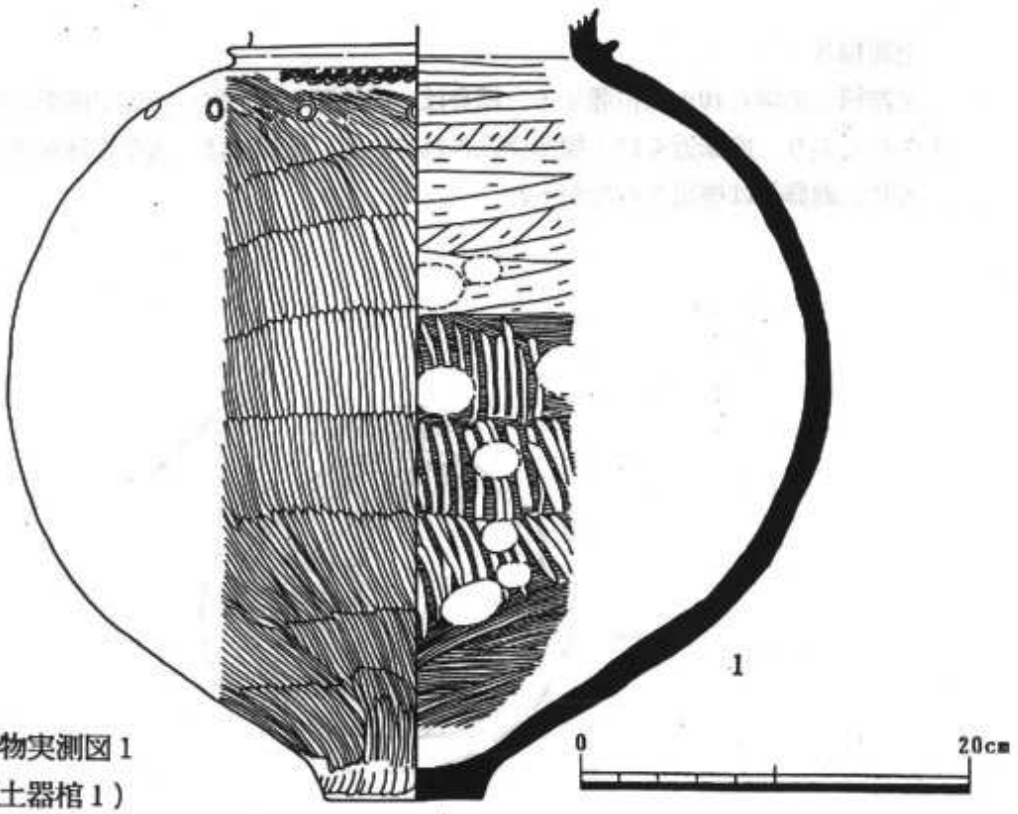
棺身は、甕が北東にほぼ横倒した状態で据えられており胴中央部に１箇所穿孔されている。

棺蓋は検出されなかった。

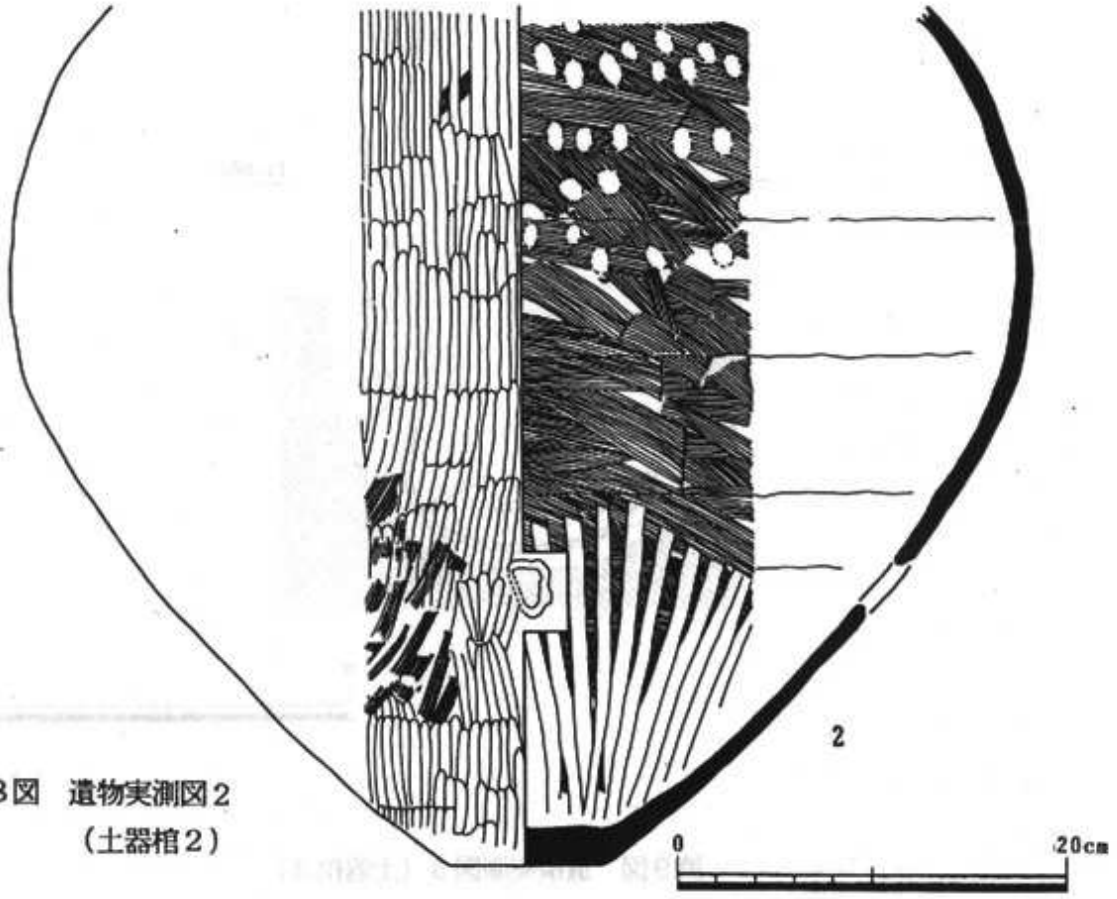
人骨、副葬品は検出されなかった。



第６図　遺構実測図２（土器棺２）



第７図　遺物実測図１
（土器棺１）

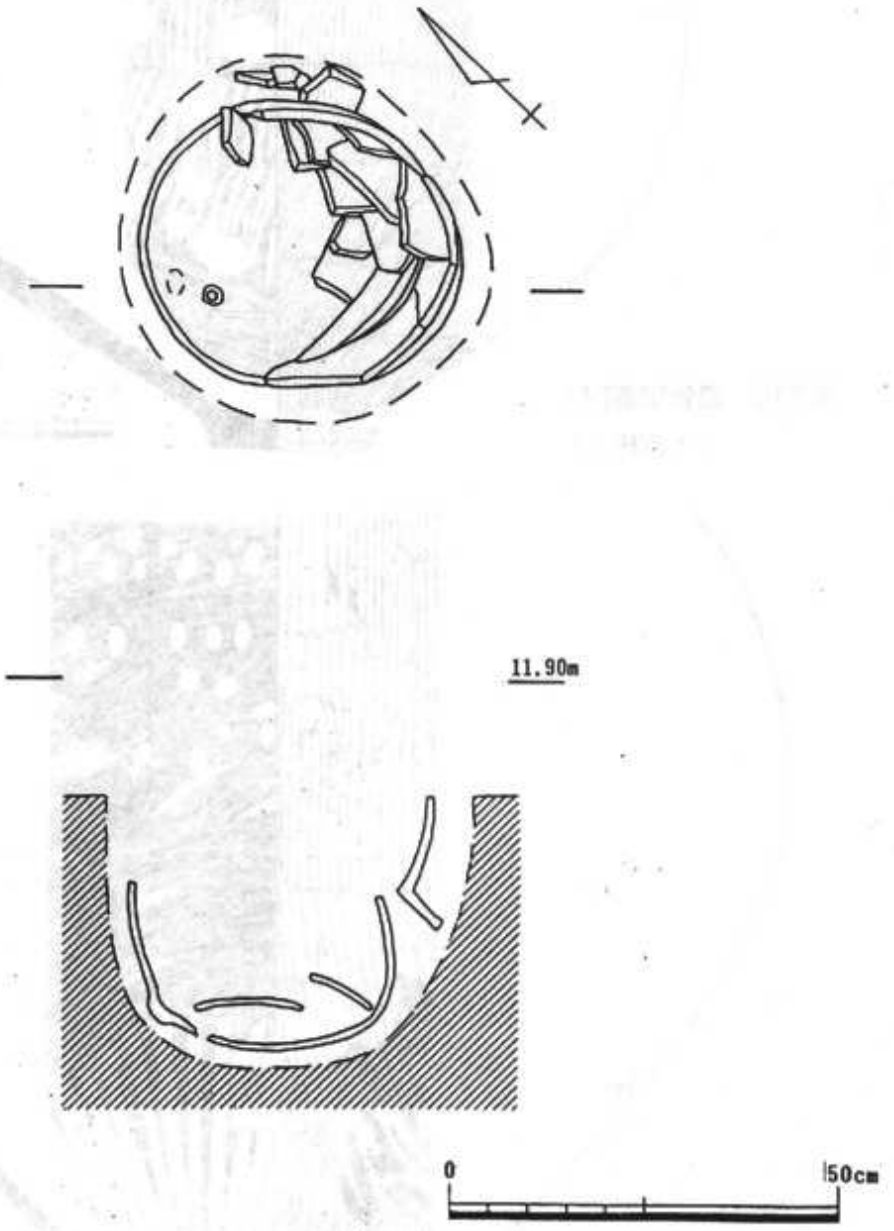


第８図　遺物実測図２
（土器棺２）

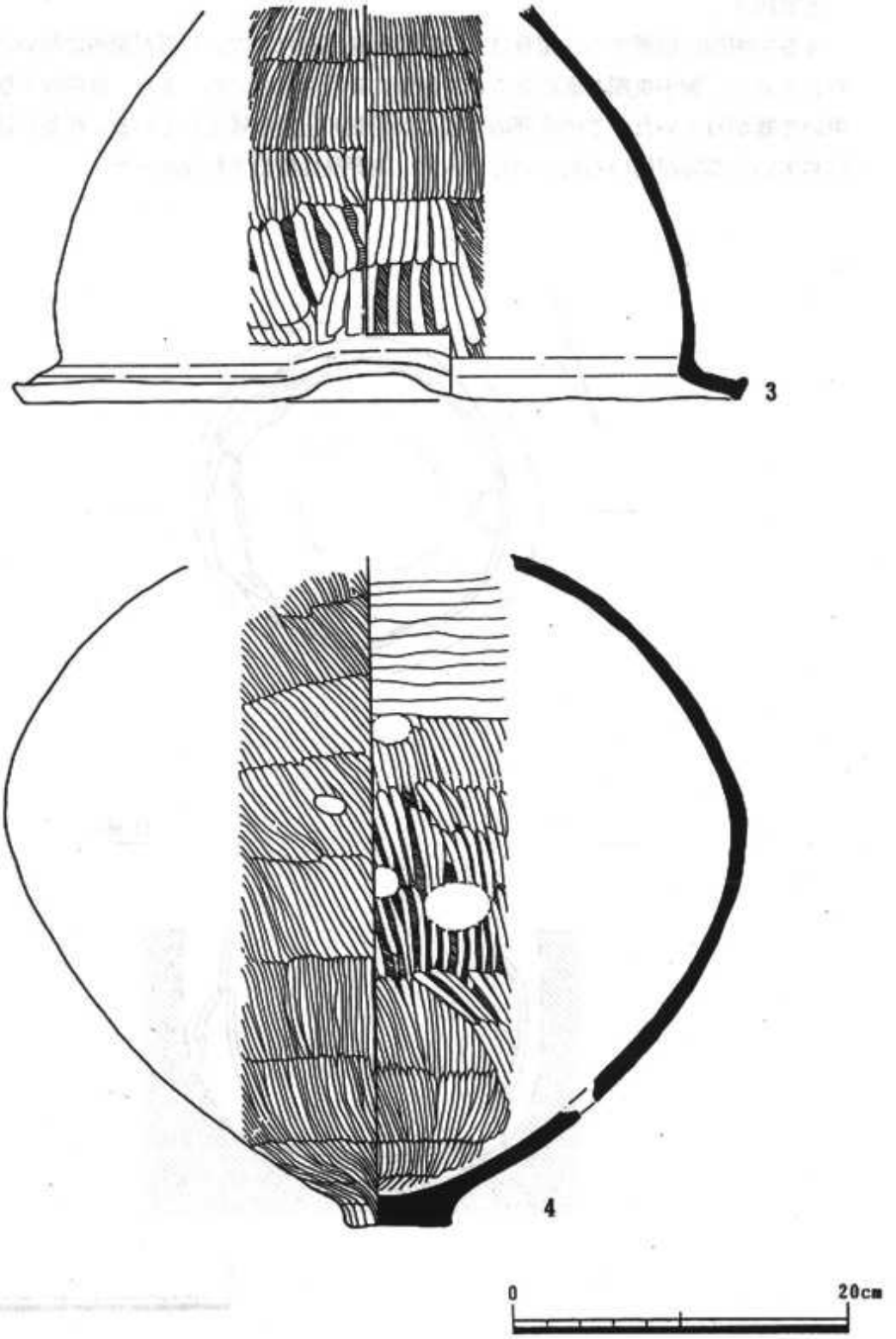
土器棺３

土器棺２の南1.10mに位置する。棺身は、口縁部を打ち欠いた壺が南東に傾いた状態で据えされており、底部近くに１箇所穿孔されている。棺蓋には、大型の鉢が用いられていた。

人骨、副葬品は検出されなかった。



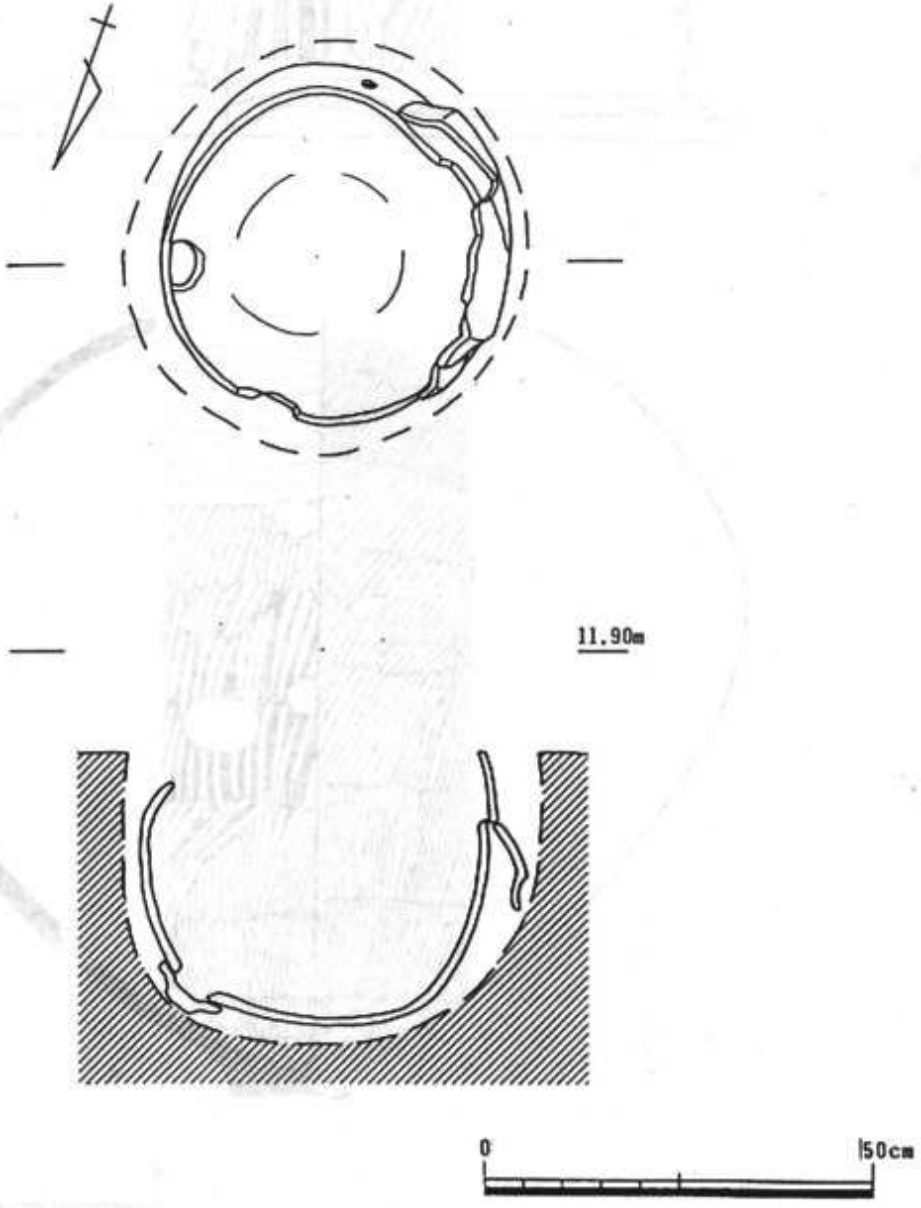
第９図　遺構実測図３（土器棺３）



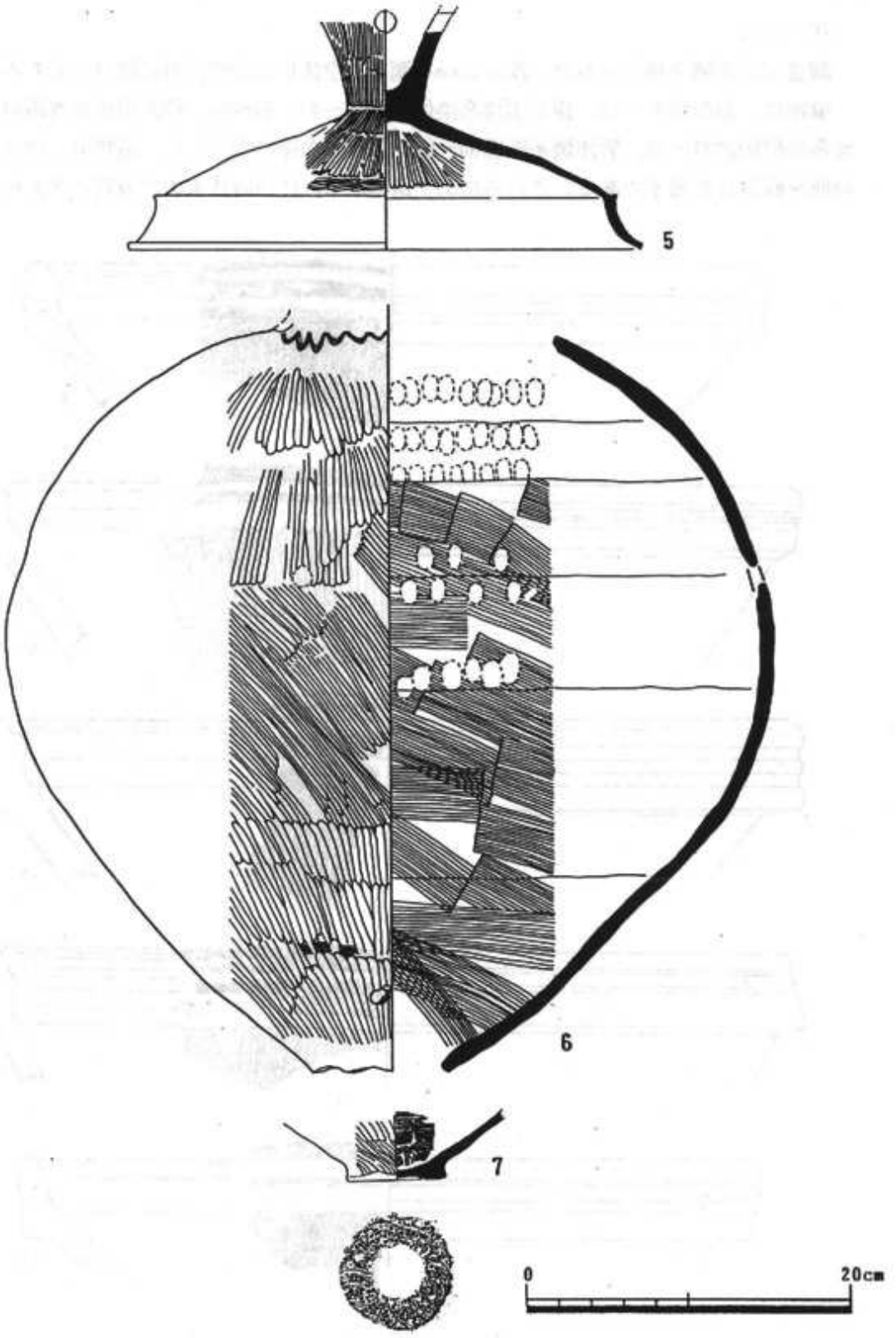
第10図　遺物実測図３（土器棺３）

土器棺４

４基中南端に位置する。棺身は、口縁部と底部を打ち欠いた壺が南西に傾いた状態で据えられており、胴中央部と底部近くの２箇所に穿孔されている。また、底部は別個体の底部を用いて塞がれていた。この底部の外面には籾殻の圧痕が残されている。棺蓋には、脚裾部を打ち欠いた高坏が用いられていた。人骨、副葬品は検出されなかった。



第11図　遺構実測図４（土器棺４）

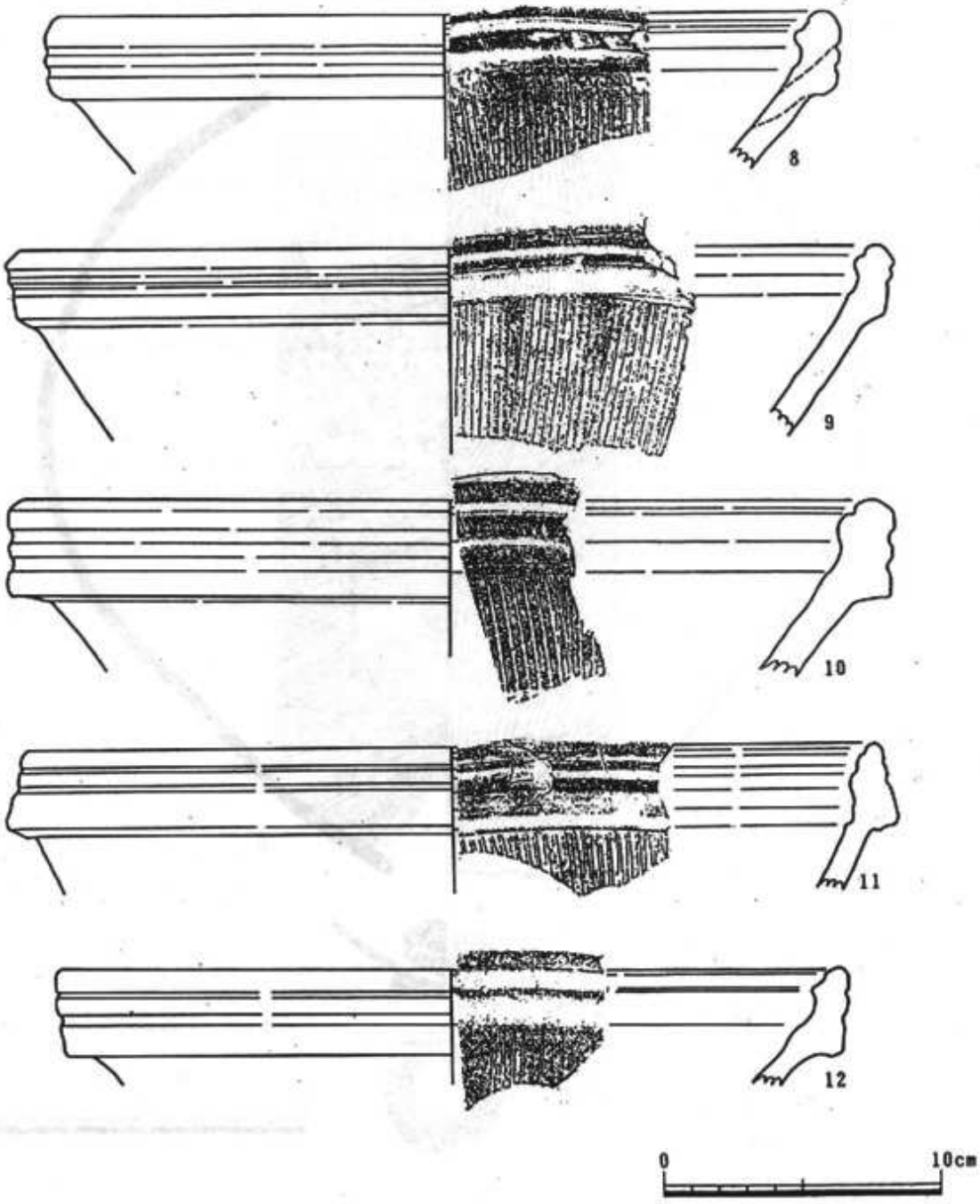


第12図　遺物実測図４（土器棺４）

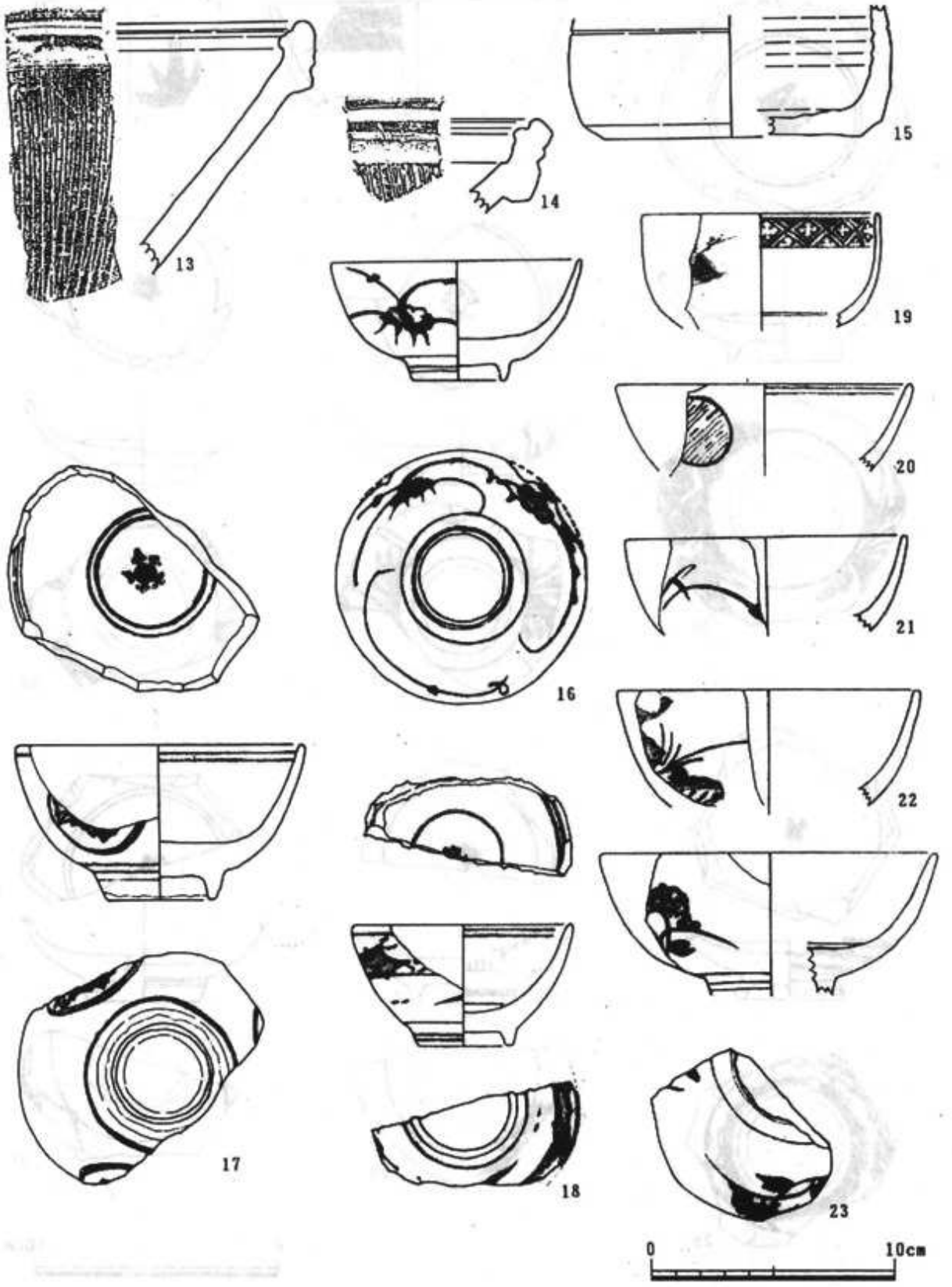
江戸土坑

調査区北東隅で検出された。深さ30cmを測る。全体形は調査区外に延びており不明である。

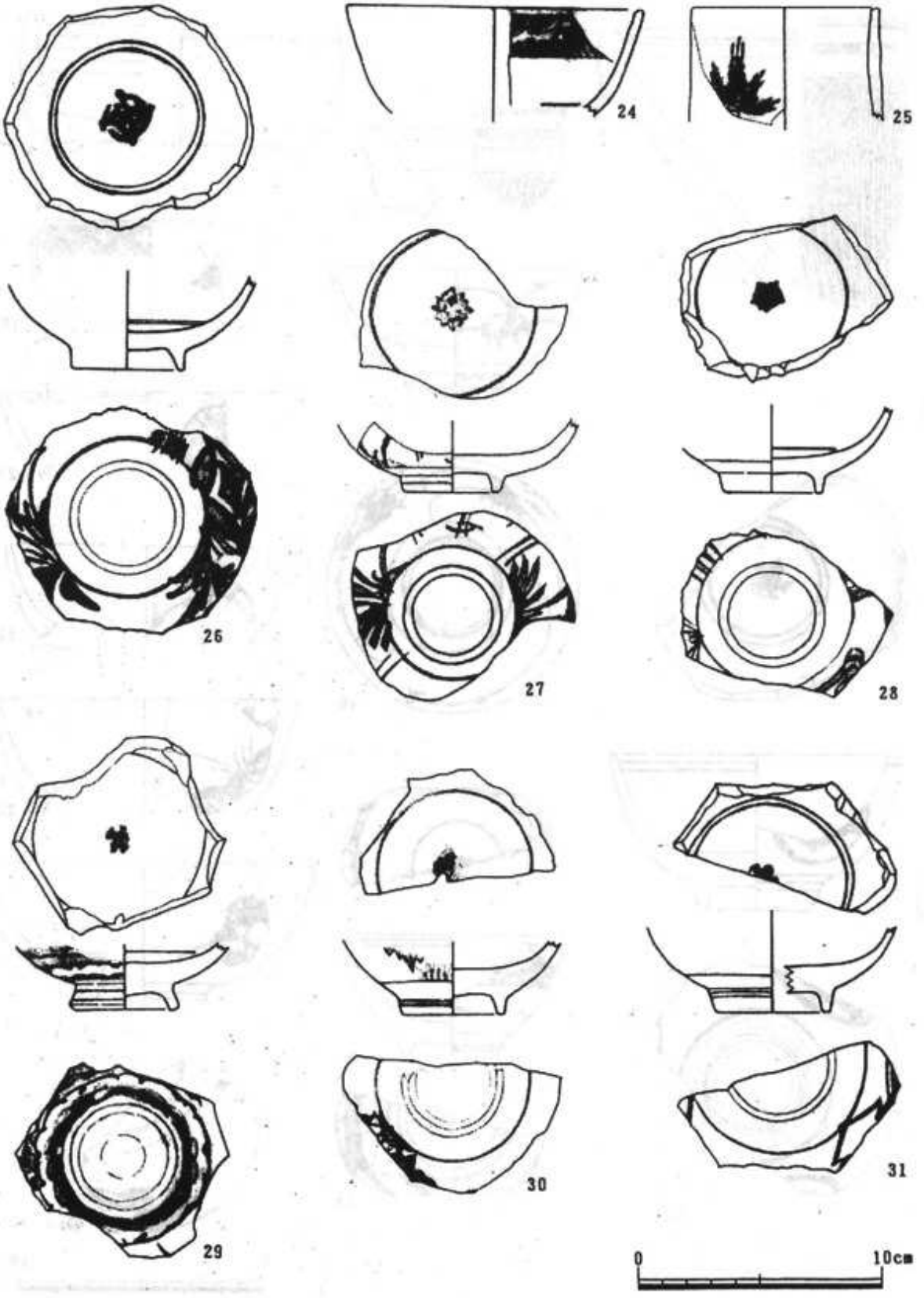
遺物は、備前焼８～15、伊万里焼系染付磁器16～43・54～56、伊万里焼系青磁44～46、京焼系染付陶器47～49、唐津焼系陶器50～53、瓦等が多量に出土した。遺物54～56は、碗の高台部を転用した面子である。これらの出土遺物から、江戸時代末のごみ穴と考えられる。



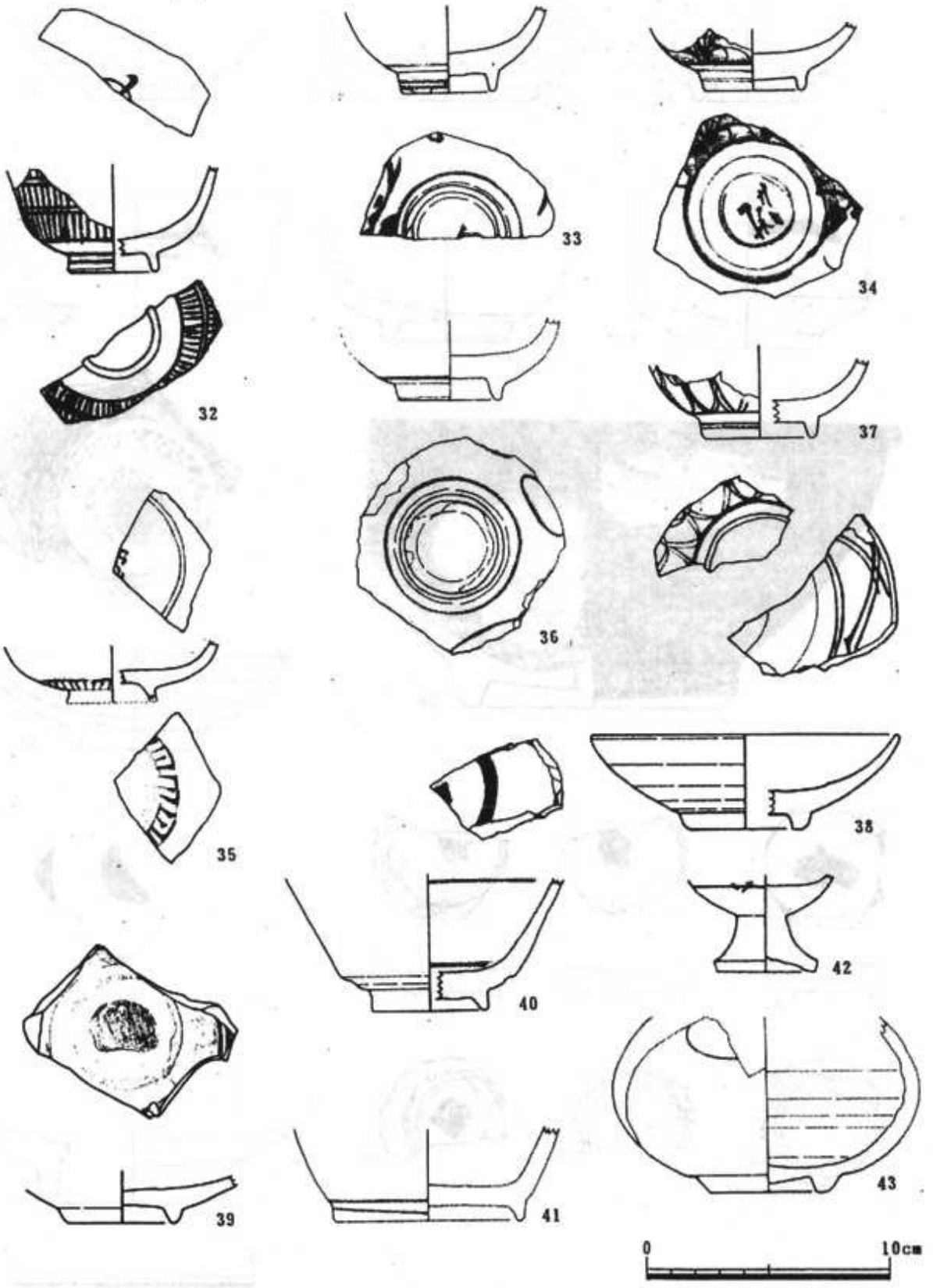
第13図　遺物実測図５（土坑出土遺物１）



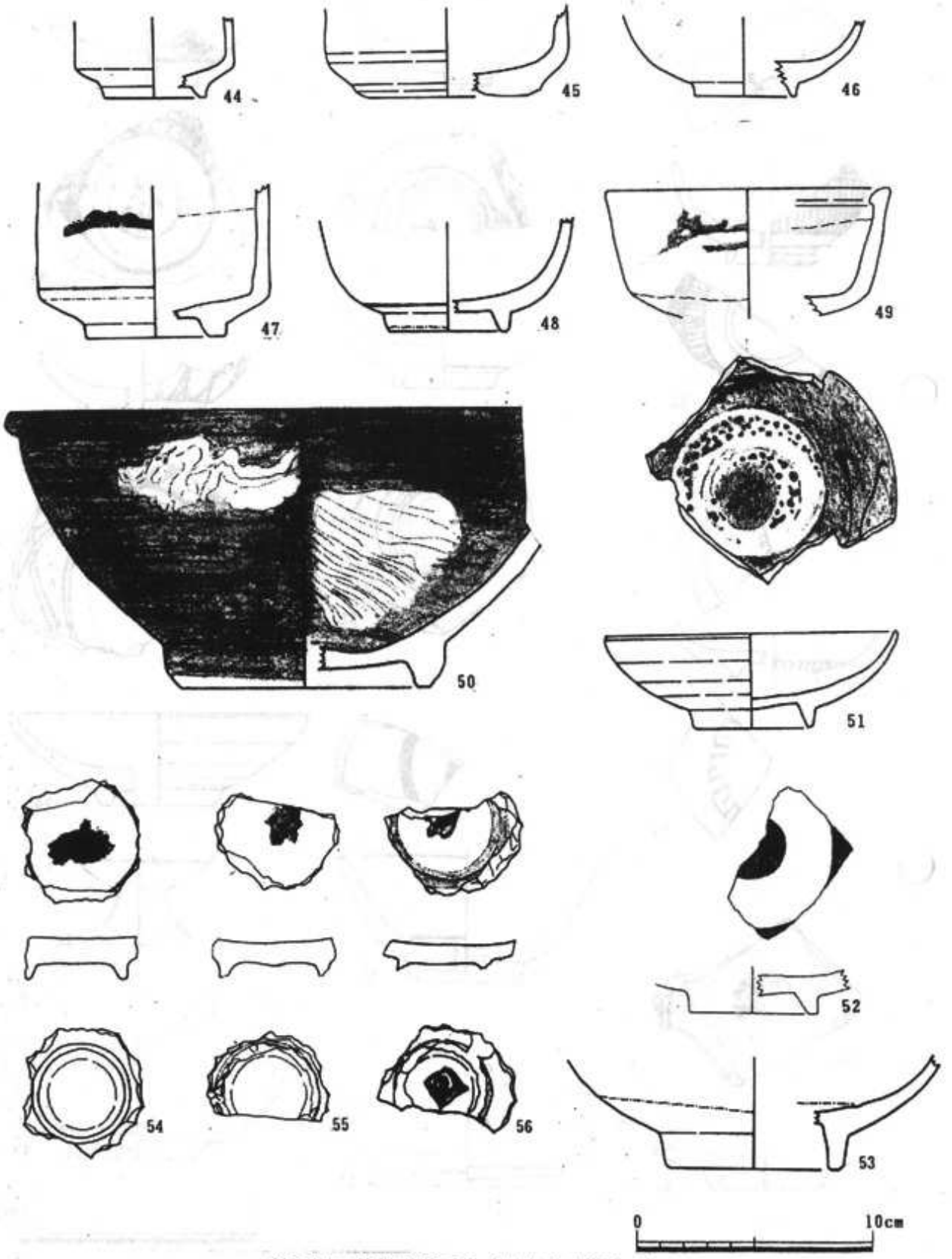
第14図　遺物実測図6（土坑出土遺物２）



第15図　遺物実測図7（土坑出土遺物3）



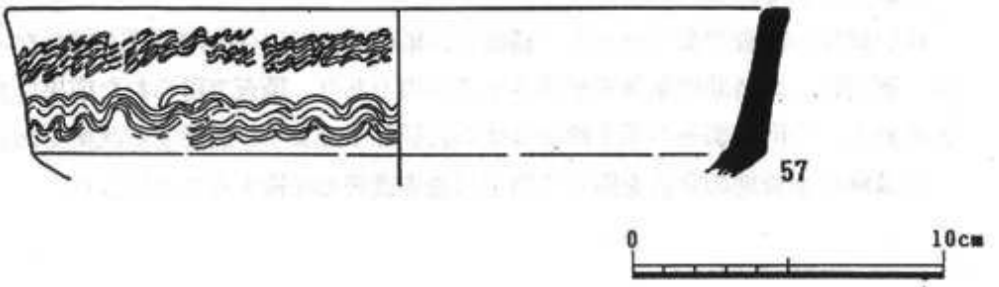
第16図　遺物実測図8（土坑出土遺物4）



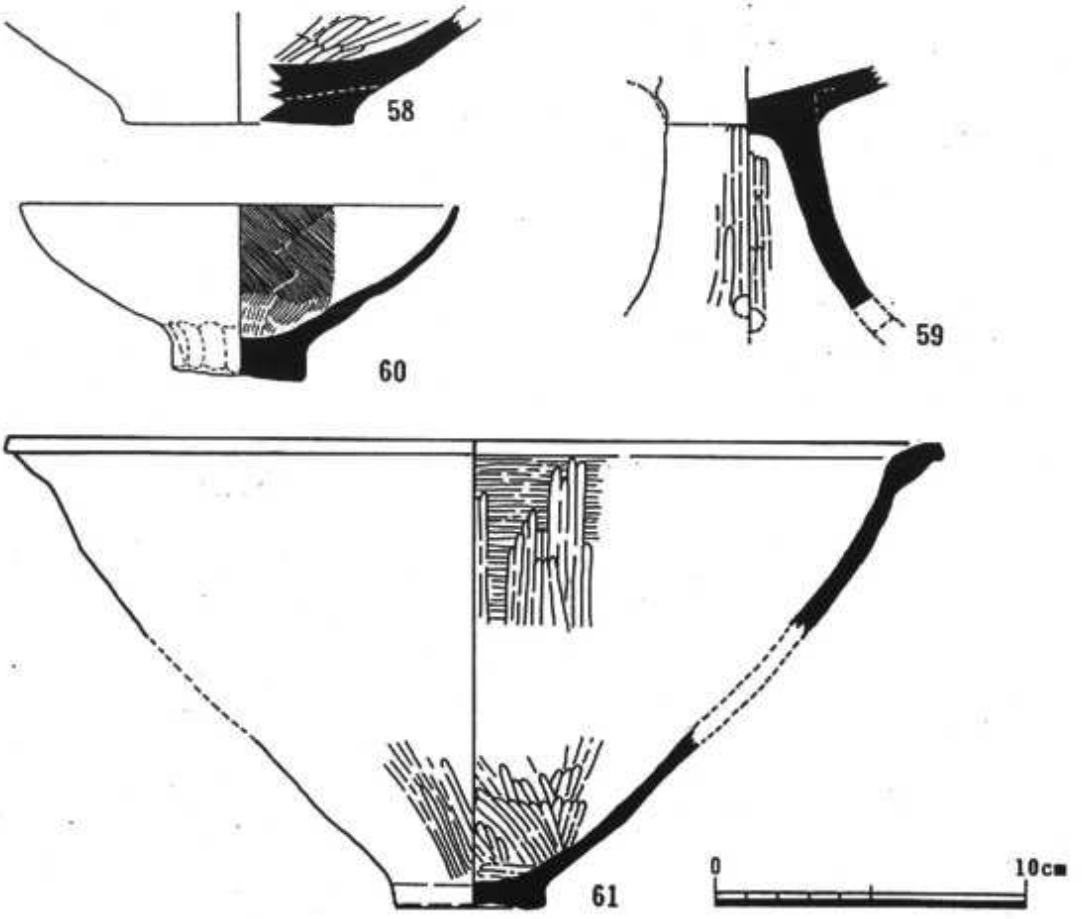
第17図　遺物実測図9（土坑出土遺物５）

9．その他の弥生遺物

土器棺以外に、土器棺１及び土器棺４周辺から弥生式土器が若干出土した。
いずれも、土器棺と同時期の遺物である。



第18図　遺物実測図10（土器棺１周辺出土遺物）



第19図　遺物実測図11（土器棺４周辺出土遺物）

10. まとめ

今回の調査の結果、江戸時代末の土坑１基と、弥生時代後期の土器棺４基を検出した。

検出された土器棺は、いずれも大きさから幼児を埋葬したものと考えられる。また、土器棺３及び土器棺４の棺身に用いられていた壺は胎土等の観察から河内地方からの搬入品と考えられるものである。

狭い範囲の調査であったため、遺跡の詳細については今後の調査を持たなければならないが、周辺にこの時期の集落を想定させるものであり、調査で得られた成果は大きいものと考えられる。今回の調査の不手際を今後の教訓とするよう、痛感する次第である。

当遺跡は調査地の字名を取って常全日蓮寺遺跡と呼称することにした。

表1　弥生遺物観察表

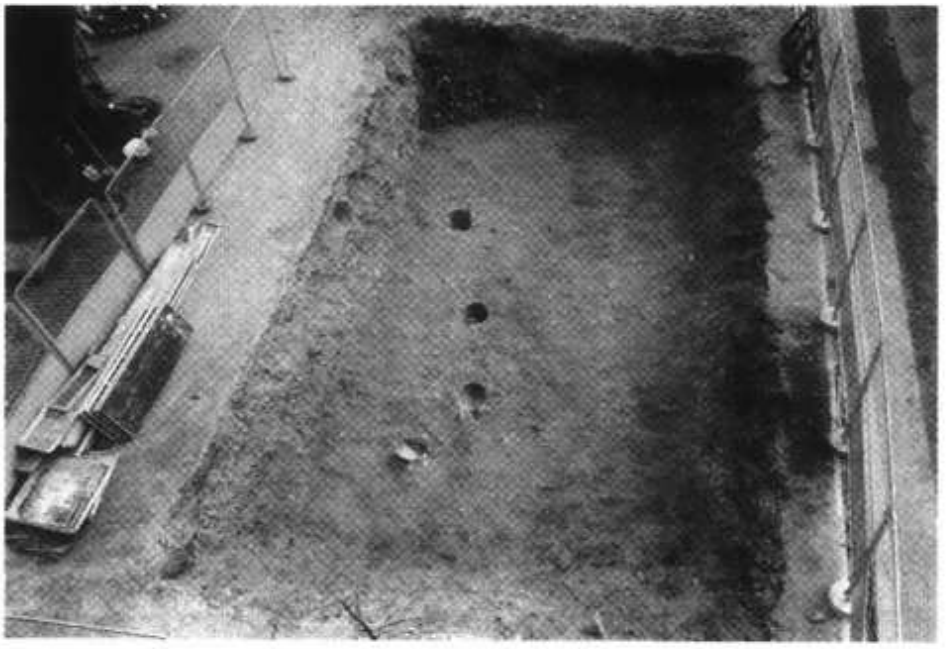
番号	出土遺構	器種	法量(cm)	調整	色調	胎土	焼成	備考
1	土器棺1	弥生土器 壺	最大径 42.4	内ー上部ヘラ削り、中央部ハケ後ヘラ磨き、下部ハケ。 外ー頸部ヨコナデ、胴部ヘラ磨き、底部ヘラ削り。	内外ー鈍い橙色 7.5YR5.4	密。	良好	棺身 口縁部破却 黒斑
2	土器棺2	弥生土器 甕	最大径 52.9	内ー上半部ハケ目、粘土接合痕、指頭圧痕、爪痕、下半部ハケ後ヘラ削り。 外ーハケ後ヘラ磨き、底部ナデ。	内ー明褐灰色 ～褐灰色 7.5YR7/1 ～7.5YR4/1 外ー褐灰色～橙色 7.5YR5/1 ～7.5YR7/6	1～3mmの小石粒を含む。	良好	棺身 口縁部破却 胴部1箇所 穿孔 黒斑
3	土器棺3	弥生土器 鉢	口　径 41.0	口縁部 内ーヘラ磨き。 外ーヨコナデ。 体部 内ーハケ後細かいヘラ磨き。 外ーハケ後ヘラ磨き。	内外ー鈍い橙色 5YR7/4	0.1～0.3mmの砂粒を含む。	良好	棺蓋 黒斑
4		弥生土器 壺	最大径 44.3	内ー上部ヘラ削り、中央部ハケ後ヘラ磨き、下部細かいヘラ磨き。 外ー上半部ヘラ磨き、下半部細かいヘラ磨き、底部ハケ後ナデ。	内ー褐色 10YR4/4 外ー黒色 10YR2/1	密。 雲母を含む。	良好	棺身 口縁部破却 胴部1箇所 穿孔 黒斑 搬入土器
5	土器棺4	弥生土器 高坏	口　径 31.6	口縁部 内外ーヨコナデ。 坏部 内外ーハケ後ヘラ磨き。 脚部 内ーヘラ削り後ナデ。 外ーヘラ磨き。	内ー橙色 5YR6/8 外ー鈍い橙色 ～橙色 7.5YR7/4 ～5YR7/8	2～3mmの小石粒をわずかに含む。	良好	棺蓋 脚部破却 黒斑
6		弥生土器 壺	最大径 47.6	内ー上部指頭圧痕、他はハケ。 外ー全体にハケ後ヘラ磨き。	内ー黒色 10YR1.7/1 外ー褐色 10YR4/4	2～3mmの小石粒をわずかに含む。雲母を含む。	良好	棺身 口縁・底部破却 胴部2箇所 穿孔 黒斑 搬入土器
7		弥生土器 壺	底　径 7.2	内ーハケ。 外ー磨き、底部ナデ。	内ー黒色 7.5YR1.7/1 外ー褐色 7.5YR4/4	0.1～2mmの白色砂粒を含む。雲母を含む。	良好	底部再利用 底部外面に切痕跡 搬入土器

番号	出土遺構	器種	法量(cm)	調整	色調	胎土	焼成	備考
57	土器棺1周辺	弥生土器 壺	口 径 15.2	内外ーヨコナデ.	内外ー褐色 7.5YR4/3	0.1 0.2mmの砂粒をわずかに含む. 雲母を含む.	良好	
58		弥生土器 壺	底 径 7.2	内ーヘラ磨き. 外ー摩滅のため不明.	内ー灰黄褐色 10YR5/2 外ー橙色 7.5YR6/6	1～2mmの砂粒を含む.	良好	
59		弥生土器 高坏	ー	坏部 内ーヘラ磨き. 外ーヨコナデ. 脚部 内ーヘラ削り. 外ーヘラ磨き.	内ー橙色 5YR7/8 外ー明赤褐色 2.5YR5/8	1mmの砂粒を少量含む.	良好	
60	土器棺4周辺	弥生土器 鉢	口 径 14.6 器 高 5.6	内ーハケ. 外ーヨコナデ.	内外ー明赤褐色 2.5YR5/8	1～5mmの小石粒をわずかに含む.	良好	
61		弥生土器 鉢	口 径 30.0	口縁部 内ーヘラ磨き. 外ーヨコナデ 体部 内ーハケ後ヘラ磨き. 外ー上部ヨコナデ下半部ヘラ磨き、底部ヘラ削り後ナデ.	内ー橙色 5YR6/8 外ー橙色 5YR7/8	1～2mmの小石粒を含む.	良好	黒斑

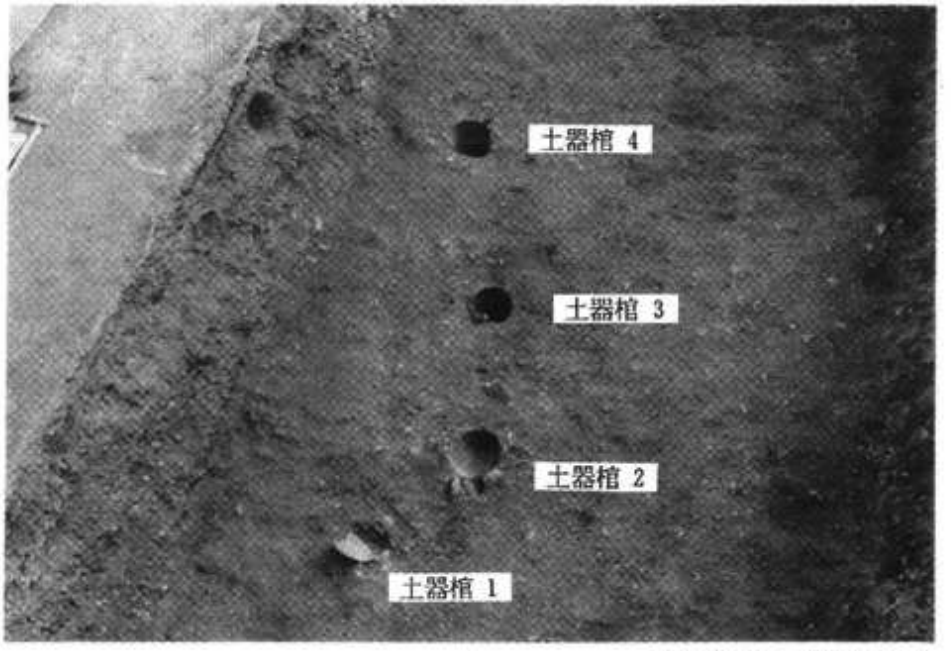
＊番号は、遺物実測図と一致する。色調は、日本色研事業株式会社発行『新版 標準土色帖 1992年版』による。

図　版

図版一

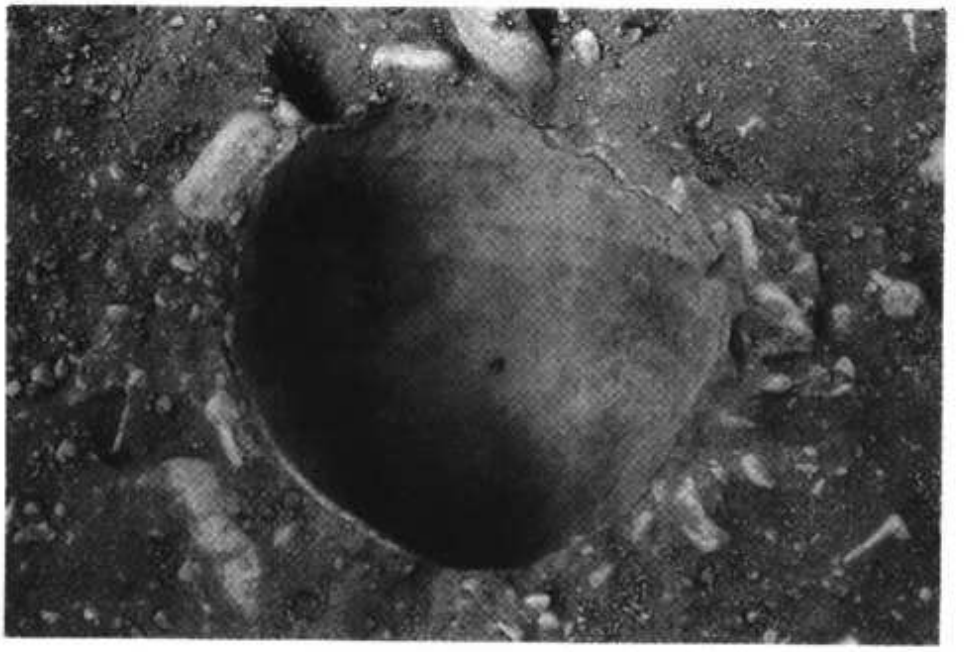


調査地全景（北から）



土器棺全景（北から）

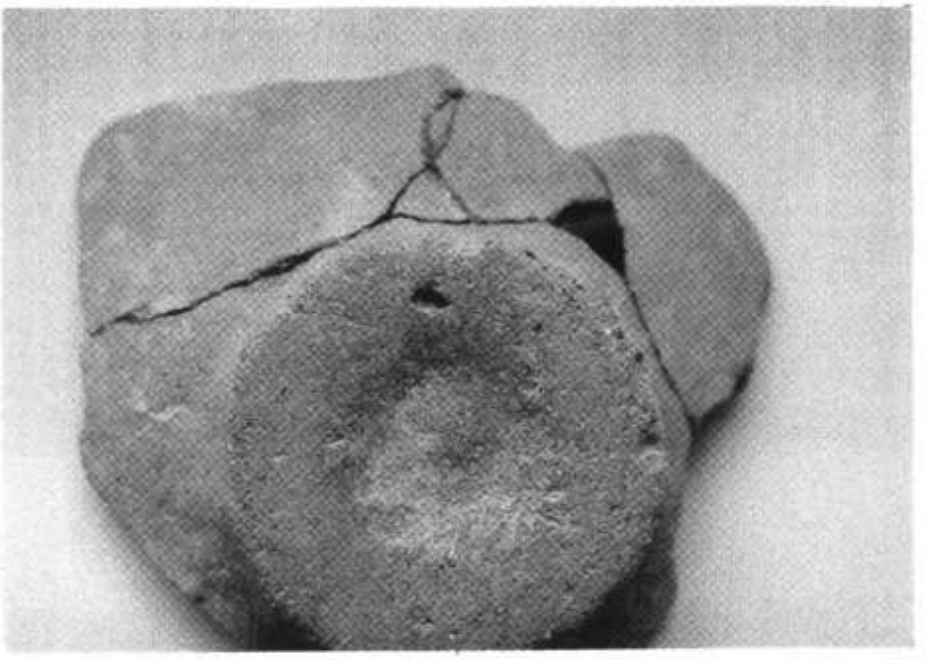
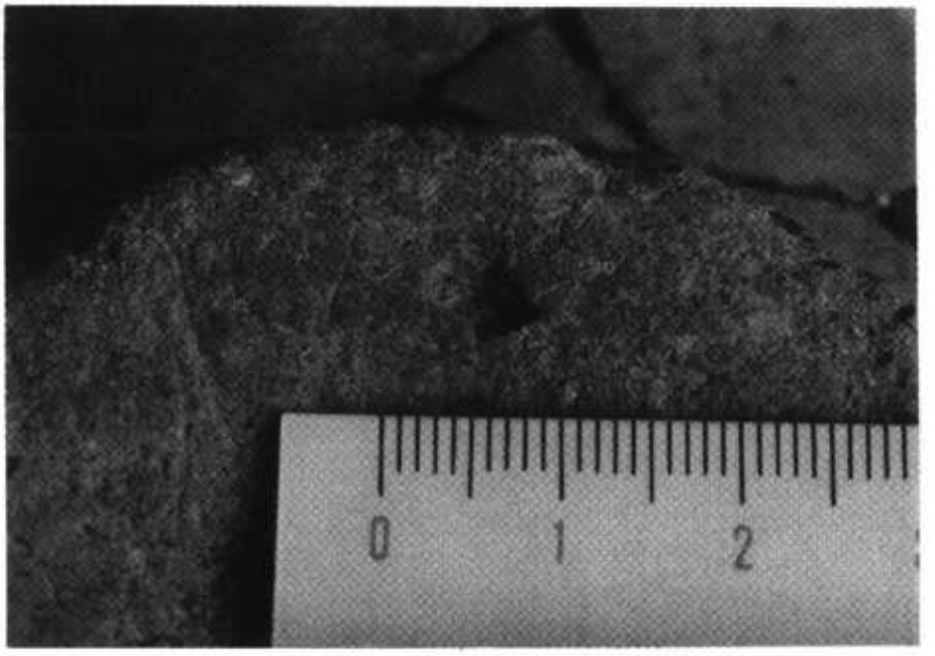
土器棺１検出状況（西から）



土器棺２検出状況（南から）

土器棺３検出状況（北から）

土器棺４検出状況（北から）



土器棺４底部籾痕跡